

# 令和7年度 事業概要

福島県県北流域下水道建設事務所

# 目次

1. 管内の概要.....	1
(1) 阿武隈川上流流域下水道事業の沿革と概要 .....	1
(2) 事務所の沿革 .....	1
(3) 事業の経過 .....	2
2. 行政機構など.....	5
(1) 内部組織 .....	5
(2) 事務分掌 .....	5
(3) 職員数 .....	6
(4) 下水道の種類 .....	6
3. 事業の概要.....	7
(1) 阿武隈川上流流域下水道（県北処理区）事業計画.....	7
(2) 県北処理区事業計画と整備状況 .....	8
(3) 事業年次別整備額一覧表 .....	9
(4) 令和7年度事業計画 .....	11
4. 災害対応体制.....	14
5. 施設など .....	16



# 1. 管内の概要

## (1) 阿武隈川上流流域下水道事業の沿革と概要

阿武隈川上流流域下水道事業は、阿武隈川上流に位置する福島県内における流域下水道事業です。

阿武隈川は、福島県と栃木県との境にある旭岳にその源を発し、県の中央部を北上して宮城県から太平洋に注ぐ一級河川であり、流域面積は5,405 km<sup>2</sup>（福島県分4,080 km<sup>2</sup>）、延長は239 km（福島県分181 km）となっており、県都福島市、商都郡山市をはじめとする多数の市町村と県人口の半分以上がこの流域に集中し、上水道や工業用水等の水源として利用され、本県の産業振興や生活環境の保全に極めて重要な役割を果たしております。

しかし、人口の集中、産業の発展等が著しいために河川の水質悪化が顕著になり、その改善のため昭和46年5月に水質環境基準の類型指定がなされました。

昭和47年には、福島、宮城の両県で阿武隈川水系における流域別下水道整備総合計画策定のための調査が実施され、昭和49年に生活環境の改善と公共用水域の水質保全を効果的に図るために流域下水道を設置することとした「下水道整備に関する基本計画」が策定されました。

福島県では、この基本計画を基に、福島市を中心とする『県北処理区』、郡山市を中心とする『県中処理区』、二本松市（旧二本松市、旧安達町）の『二本松処理区』及び田村市（旧船引町、旧常葉町、旧大越町、旧滝根町）の『田村処理区』に分けて流域下水道の整備を推進しております。

当事務所が所管する福島市、伊達市、桑折町、国見町の2市2町からなる『県北処理区』は、昭和59年度から事業に着手し、平成8年4月に関連2市2町が同時に一部供用を開始しており、今年で41年目を迎えます。これまで下水道の普及率向上のため、計画的な整備に努めてまいりました。

令和元年10月の東日本台風により、当処理区の県北浄化センターが浸水し甚大な被害を受けましたが、災害復旧事業により令和4年3月までに水処理・汚泥処理機能を回復することができました。今後も関係各所の協力を仰ぎながら、引き続き事業の進捗に努めてまいります。

## (2) 事務所の沿革

### ① 事務所の名称

福島県県北流域下水道建設事務所

〒960-0102 福島市鎌田字一本松43

TEL (024) 554-2011 (代表:総務課) -2012・2013 (建設課)

FAX (024) 554-2932

### ② 沿革

昭和54年4月	土木部に下水道課が新設（公共下水道係、流域下水道係）される
57年4月	下水道課に分室が設けられる（県北処理区担当）
61年4月	下水道課国見駐在事務所が設置される
63年4月	県北流域下水道建設事務所の設置
平成元年4月	総務担当次長・業務担当次長の2次長制設置 総務課・建設課（建設第一係・建設第二係）の2課制設置
12月	県北流域下水道建設事務所庁舎新築（福島市鎌田）
15年4月	総務グループ・建設グループ（管渠担当・処理場担当）に組織改正
20年4月	総務課・建設課（管渠担当・処理場担当）に組織改正



### (3)事業の経過

- 昭和47年6月 阿武隈川流域別下水道整備総合計画策定着手
- 49年4月 都市計画課に流域下水道係新設
- 5月 県北処理区の浄化センター位置選定について国見町長に協議
- 9月 阿武隈川流域別下水道整備総合計画の承認申請
- 50年4月 都市計画課内に下水道室設置
- 9月 国見町議会から浄化センター設置反対にかかる陳情書提出
- 50年12月 国見町議会に対して浄化センター設置の協力要請
- 52年1月 地権者に対し第1回目の浄化センター設置の説明会
- 53年12月 国見町議会は浄化センター設置賛成決議
- 54年4月 地権者会が浄化センター設置に対する公開質問状を国見町長及び町議会に提出
- 7月 国見町議会は浄化センター設置反対の請願を採択（反対署名運動）
- 56年2月 地権者と話し合い再開
- 11月 国見町長より浄化センター設置に伴う要望書提出
- 12月 要望書（周辺対策事業）に対して回答  
国見町議会は浄化センター設置賛成決議
- 57年7月 県北都市計画下水道の決定（事前協議）（7月15日建設省福都計第24号）
- 7月 県北都市計画下水道決定の縦覧告示（7月20日～8月3日告示第319号）
- 9月 第61回都市計画地方審議会議決（9月2日）  
都市計画決定の認可（9月20日建設省福都計第24号）  
都市計画決定の認可の県報告示（9月28日告示第1321号）
- 58年7月 都市計画法及び下水道法の事業認可（7月4日建設省福都下流発第2、3号）  
都市計画法及び下水道法の事業認可の告示（7月15日建設省告示第1288号）  
都市計画法及び下水道法の事業認可の告示（県報登載）
- 12月 周辺対策事業の内容決定（12月26日）
- 59年1月 浄化センター補償基準の発表（1月10日）
- 12月 浄化センター補償基準の協定調印（12月28日）
- 60年3月 浄化センター用地契約調印（3月20日80名）
- 61年1月 浄化センター用地契約調印（1月25日154名、全て調印完了）
- 4月 下水道課国見駐在事務所の設置
- 9月 都市計画決定の告示（9月2日汚水量の見直しによる変更）  
都市計画法及び下水道法の事業認可（変更9月9日）
- 10月 左岸幹線管渠工事に着手（国見町徳江地区）
- 11月 県北処理区起工式（11月29日）
- 63年4月 県北流域下水道建設事務所の設置
- 平成元年12月 県北流域下水道建設事務所庁舎落成
- 2年2月 都市計画決定の告示（2月20日一部ルートの変更外）
- 3月 都市計画法及び下水道法の事業認可（変更都計法3月22日、下法3月1日）
- 9月 浄化センター水処理施設工事に着手
- 3年1月 国見幹線管渠工事に着手
- 11月 保原幹線管渠工事に着手
- 4年8月 浄化センター管理棟本館建築工事に着手
- 11月 飯坂幹線管渠工事に着手
- 12月 梁川幹線管渠工事に着手



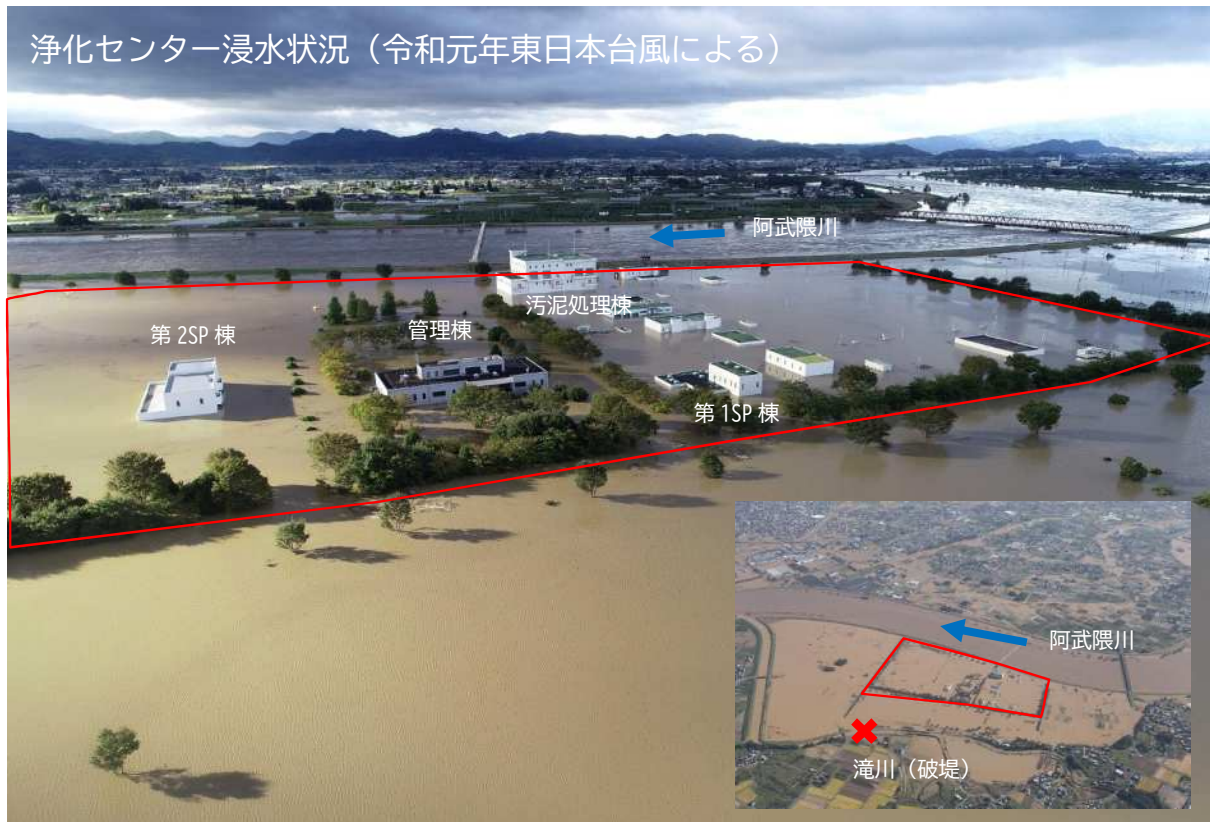
- 平成5年3月 国見幹線管渠工事完了  
10月 暫定汚泥処理棟の建設工事に着手  
12月 浄化センター場内整備工事に着手
- 6年7月 都市計画決定の告示（7月8日一部ルート延伸による変更外）  
都市計画法及び下水道法の事業認可（変更7月21日）  
10月 左岸幹線管渠工事貫通式（10月7日浄化センターから福島市鎌田地内）
- 7年2月 都市計画決定の告示（2月23日一部ルートの変更）  
3月 都市計画法及び下水道法の事業認可（変更3月8日）  
飯坂幹線管渠工事完了
- 8年3月 保原幹線、梁川幹線管渠工事完了  
4月 県北処理区第一期供用開始（福島市、桑折町、伊達町、国見町、梁川町、保原町、同時供用）  
5月 都市計画決定の告示（5月31日一部ルート変更・区域の拡大）  
7月 都市計画法及び下水道法の事業認可（変更7月18日）
- 10年10月 都市計画決定の告示（10月2日一部ルートの変更）  
11月 都市計画法及び下水道法の事業認可（変更11月18日）
- 11年5月 下水道法の事業認可（変更5月31日）  
11月 都市計画決定の告示（11月12日処理場用地の一部廃止）  
12月 都市計画法及び下水道法の事業認可（変更12月7日）
- 13年1月 都市計画決定の告示（1月19日一部ルート延伸による変更外）  
3月 都市計画法の事業認可（変更3月9日）  
下水道法の事業認可（変更3月23日）
- 14年4月 都市計画決定の告示（4月5日後続幹線を右岸幹線に変更外）  
9月 都市計画法の事業認可（変更9月10日）  
10月 下水道法の事業認可（変更10月2日）
- 15年10月 右岸幹線工事に着手
- 16年3月 都市計画法及び下水道法の事業認可（変更3月31日）
- 17年2月 下水道法の事業認可（変更2月25日）  
4月 都市計画決定の告示（変更4月8日・右岸幹線ルートの一部変更）  
4月 都市計画法及び下水道法の事業認可（変更4月28日）
- 20年10月 下水道法の事業認可（変更10月17日） 都市計画法の事業認可（変更10月24日）
- 23年3月 東日本大震災、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故（3月11日）  
5月 汚泥搬出停止、場内保管開始（5月2日）
- 24年2月 下水道法の事業認可（変更2月24日） 都市計画法の事業認可（変更2月27日）  
8月 日々発生汚泥の一部搬出開始（8月1日）
- 25年4月 日々発生汚泥の全量搬出再開（4月13日）  
11月 「県北浄化センターの保管汚泥全量搬出に向けた仮設汚泥乾燥施設に関する覚書」締結
- 26年7月 仮設汚泥乾燥施設安全祈願際（7月26日）
- 27年3月 仮設汚泥乾燥施設竣工、日本下水道事業団から県へ引き渡し（3月31日）  
4月 仮設汚泥乾燥施設運転開始式（4月21日）  
5月 環境省と乾燥汚泥搬出業務に関する委託契約締結（5月25日）  
6月 環境省による乾燥汚泥の搬出開始（6月1日）
- 29年1月 下水道法の事業計画（変更）届出（変更1月26日）  
1月 乾燥汚泥の全量搬出完了（1月30日）  
2月 都市計画法の事業認可（変更2月13日）  
仮設テント（汚泥保管）撤去完了（2月28日）





- 3月 右岸幹線管渠工事完了
- 4月 仮設汚泥乾燥施設解体撤去開始（4月1日）
- 5月 右岸幹線一部供用開始
- 30年1月 仮設汚泥乾燥施設解体撤去完了（1月11日）
- 31年2月 第2スクリーンポンプ棟供用開始（2月26日）
- 3月 右岸幹線全線供用開始（3月11日）
- 令和元年10月 **令和元年東日本台風により浄化センターが被災（10月12～13日）**
- 2年1月 第10次災害査定
- 2年10月 災害復旧事業全てが契約となり、復旧工事本格化
- 3年12月 水処理施設復旧完了
- 4年2月 都市計画法及び下水道法の事業認可（変更、都計法2月18日、下法2月21日）
- 3月 災害復旧事業がすべて完了
- 4月 「県北浄化センターへ福島市堀河処理区を接続することに関する要望書、回答書の手交及び覚書締結式」（4月7日）
- 5年4月 福島市堀河処理区接続（4月3日）

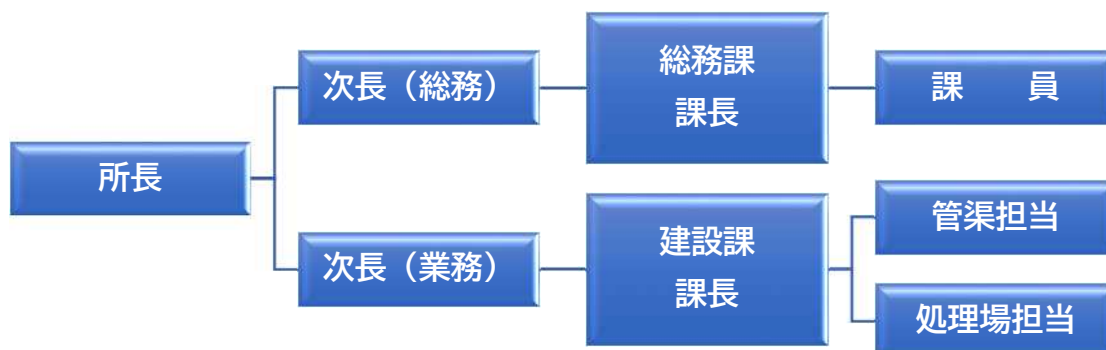
浄化センター浸水状況（令和元年東日本台風による）





## 2. 行政機構など

### (1) 内部組織



### (2) 事務分掌

課名	主な事業の内容
総務課	所内の総務全般に関すること 庁費及び事業費の執行並びに収入に関すること 用地の取得及び補償に関すること
建設課	管渠担当 管渠工事にかかる調査・設計・施工に関すること 管渠工事にかかる監督及び施工管理に関すること 管渠施設の更新に関すること 災害復旧工事（土木）に関すること
	処理場担当 処理場工事にかかる調査・設計・施工に関すること 処理場工事にかかる監督及び施工管理に関すること 処理場施設の更新に関すること 災害復旧工事（建築、設備）に関すること

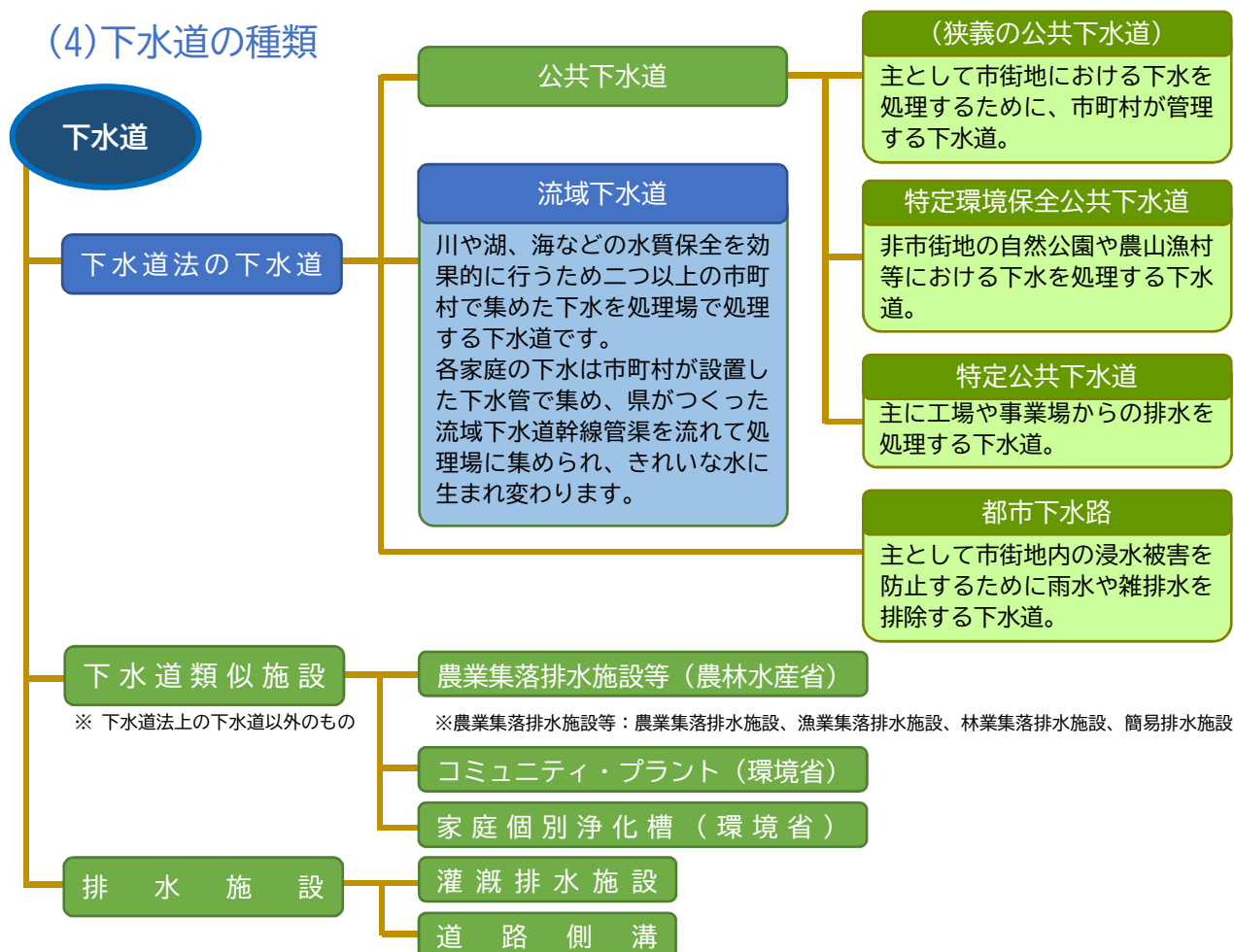


### (3)職員数

(令和7年4月1日現在)

課名	行政職												計	
	所長	次長 (総務)	次長 (業務)	課長	主任 査	専 門 電 気 技 師	主 査	主任 電 気 技 師	副 査	主 査	技 師	専 門 員		専 門 員
事務所	1	1	1											3
総務課				兼(1)			1			1		1	1	4 兼(1)
建設課				1	1	1	2		2					7
管渠担当					1				2					3
処理場担当						1	2							3
合計	1	1	1	1 兼(1)	1	1	3		2			1	1	14 兼(1)

### (4)下水道の種類







### 3. 事業の概要

#### (1)阿武隈川上流流域下水道（県北処理区）事業計画

(令和4年2月21日変更認可)

項目	計画別	全体計画	事業計画
関連市町		福島市、伊達市（旧伊達町、旧梁川町、旧保原町）、桑折町、国見町	
計画事業期間		昭和59年度～	昭和59年度～令和8年度
計画処理区域面積		7,337ha	5,341ha
計画処理人口		252,050人	214,760人
計画汚水量（日最大）		134,460 m <sup>3</sup> /日	110,670 m <sup>3</sup> /日
排除方式		分流式	
処理方式		標準活性汚泥法	
放流先		阿武隈川（水質環境基準:B-Ⅱ）	
管渠		L=56.0km φ400mm～φ1,650mm	L=55.9km φ400mm～φ1,650mm
中継ポンプ場		1カ所（伊達）	2カ所（梁川・伊達）
処理場		県北浄化センター（伊達郡国見町大字徳江地内 42.6ha）	
水質		BOD 254 mg/l（流入）→15 mg/l（放流） SS 208 mg/l（流入）→20 mg/l（放流）	BOD 252 mg/l（流入）→15 mg/l（放流） SS 202 mg/l（流入）→20 mg/l（放流）



## (2) 県北処理区事業計画と整備状況

流域下水道は幹線管渠と終末処理場の基幹施設からなり、都道府県が設置、管理しています。これにつながる公共下水道を流域関連公共下水道といい、各市町が設置、管理しています。

### ①流域関連公共下水道

(令和5年3月末日現在)

都市名	全体計画		事業計画				面整備状況		下水道普及状況		
	計画面積 (ha)	計画人口 (千人)	計画面積 (ha)	計画人口 (千人)	全体に 対する率	認可 期間	面積 (ha)	全体に 対する率	処理区域内 人口 (千人) F	行政人口 (千人) G	普及率 F/G
	A	B	C	D	C/A		E	E/A			
福島市	6,275	220.0	4,335	183.1	69.1%	S62~R8	3,948.6	62.9%	181.0	269.3	67.2%
伊達市	732	22.2	685	21.8	93.6%	S63~R8	622.3	85.0%	22.1	57.2	38.6%
桑折町	163	5.1	163	5.2	100.0%	S63~R8	162.8	99.9%	5.5	11.1	49.5%
国見町	168	4.7	158	4.7	94.0%	S63~R8	161.0	95.8%	4.1	8.3	49.4%
合計	7,338	252.0	5,341	214.8	72.8%		4,894.7	66.7%	212.7	345.9	61.5%

### ②流域下水道（管渠・処理場）

(令和7年3月末日現在)

種別	全体計画 (A)	事業計画 (B)	整備状況 (C)	整備率 (C) / (A)	備考
管渠工	左岸幹線 L=30,520m φ=600mm~1,500mm	L=29,550m φ=600mm~1,500mm	L=29,550m φ=600mm~1,500mm	96.8%	
	右岸幹線 L=17,260m φ=1,650mm	同左	同左	100.0%	
	国見幹線 L=2,140m φ=400mm~500mm	同左	同左	100.0%	
	飯坂幹線 L=930m φ=700mm	同左	同左	100.0%	
	梁川幹線 L=1,790m φ=400mm~600mm	L=2,680m φ=400mm~600mm	同左	100.0%	全体計画では、 右岸幹線接続となる
	保原幹線 L=3,380m φ=400mm~800mm	同左	同左	100.0%	
	計	L=56,020m φ=400mm~1,650mm	L=55,940m φ=400mm~1,650mm	L=55,940m φ=400mm~1,650mm	99.8%
処理場工	処理水量 (日最大)	134,460 m <sup>3</sup> /日	110,670 m <sup>3</sup> /日	105,349 m <sup>3</sup> /日 ※令和5年度実績	—
	処理能力	140,480 m <sup>3</sup> /日 (3系列16池)	122,920 m <sup>3</sup> /日 (3系列14池)	105,360 m <sup>3</sup> /日 (2系列12池)	75.0%



### (3)事業年次別整備額一覧表

(令和7年3月末日現在、単位：百万円)

年度	交付金等事業費					単独事業費			合計	累計	
	管渠	中継ポンプ場	処理場		小計	周辺対策(水源移転含む)	管渠処理場(補修等)	小計			
昭和57～平成元	2,849	0	用地、道路、事務所		3,825	6,674	596 町道改良	163	759	7,433	7,433
平成2	1,779	0	水処理		310	2,089	107 町道改良	37	144	2,233	9,666
平成3	1,521	0	水処理、ポンプ棟、道路		679	2,200	124 町道改良	25	149	2,349	12,015
平成4	2,267	0	管理棟、ポンプ棟、送風機棟、濃縮槽、塩素混和池		931	3,198	176 町道改良	17	193	3,391	15,406
平成5	1,793	0	ポンプ棟、放流ポンプ棟、場内整備、処理水再利用施設、污泥処理		3,137	4,930	327 橋梁、道路改良、広場	33	360	5,290	20,696
平成6	1,536	5	管理棟監視制御、水処理(1池機械・電気)	污泥処理、放流ポンプ、塩混、放流口	1,795	3,336	257 橋梁、道路改良、広場	43	300	3,636	24,332
平成7	2,659	218		自家発電機、放流ポンプ	試験機器	2,618	5,495	174 橋梁、道路改良、広場	180	354	5,849
平成8	3,424	0			528	3,952	0	76	76	4,028	34,209
平成9	2,735	0	水処理(2池機械・電気)		325	3,060	0	67	67	3,127	37,336
平成10	3,319	0	水処理(3・4池土木)		1,198	4,517	0	65	65	4,582	41,918
平成11	1,476	0	污泥処理(建築・機械・電気)		1,945	3,421	0	38	38	3,459	45,377
平成12	1,465	0	水処理(3・4池機械・電気)		2,171	3,636	0	45	45	3,681	49,058
平成13	1,338	0	水処理(5・6池土木)	污泥濃縮機	595	1,933	0	26	26	1,959	51,017
平成14	1,336	0	汚水・放流ポンプ、砂ろ過器、除塵機		883	2,219	0	29	29	2,248	53,265
平成15	1,786	0	放流ポンプ	污泥濃縮機	502	2,288	0	21	21	2,309	55,574
平成16	2,089	0	発電機		397	2,486	0	26	26	2,512	58,086
平成17	2,028	0	5・6池設備、No4送風機	6池設備	540	2,568	0	11	11	2,579	60,665
平成18	1,402	0	No2脱水機、No6放流ポンプ、No2非常用発電機		729	2,131	0	20	20	2,151	62,816
平成19	1,130	0	污泥処理棟増築、塩素混和池増設	2系1・2池水処理施設、2系送風機棟電機室	566	1,696	0	14	14	1,710	64,526
平成20	1,484	0	污泥処理棟増築(電気・機械)	2系1・2池水処理、污泥処理棟増築	892	2,376	0	3	3	2,379	66,905



年度	交付金等事業費					単独事業費			合計	累計	
	管渠	中継ポンプ場	処理場		小計	周辺対策(水源移転含む)	管渠処理場(補修等)	小計			
平成 21	558	0	2系列3・4池水処理(土木) No.6汚水ポンプ	2系1・2池水処理(機械・電気)、 汚泥処理棟増築(建築)	1,578	2,136	6	3	9	2,145	69,050
平成 22	1,284	0	2系列3・4池水処理設備、第2SP棟(土木)、2系列3・4池送風機	No.3汚泥濃縮・脱水設備	1,350	2,634	0	3	3	2,637	71,687
平成 23	1,556	0		2系5・6池水処理(土木)	1,278	2,834	0	4	4	2,838	74,525
平成 24	1,532	0	2系列5・6池(土木付帯)	第2SP棟(建築)	850	2,382	0	4	4	2,386	76,911
平成 25	372	0		第2SP棟(電気・機械)	428	800	0	2	2	802	77,713
平成 26	257	0	1系列1・2池蓋更新、防食工	1系列2池散気装置更新 中央監視装置更新	409	666	0	2	2	668	78,381
平成 27	415	0	1系列1・2池防食工、気中開閉器更新、1系列2池散気装置更新	中央監視装置更新	605	1,020	0	10	10	1,030	79,411
平成 28	133	0	圧送管	第1SP棟し渣洗浄機更新 中央監視装置更新、第2SP棟(電気、揚水・し渣機械)	1,124	1,257	0	26	26	1,283	80,694
平成 29	39	0	第2SP棟防食工	第2SP棟受変電設備、周辺場内整備	1,082	1,121	0	35	35	1,156	81,850
平成 30	103	0	2系列5池防食工	2系列5池水処理(機械・電気)、 No4汚泥濃縮機	328	431	0	29	29	460	82,310
令和元	93	0	2系列6池防食工	耐水化基本計画	527	620	0	39	39	659	82,969
令和 2	83	0	沈砂分離機更新	第2SP棟耐水化改修設計	808	891	0	39	39	930	83,899
令和 3	59	0	第2SP棟耐水改修(電気・土木)	第2SP棟耐水改修(電気・土木)	450	509	0	47	47	556	84,455
令和 4	197	0	2系6池設備新設 1系3池防食工	汚泥濃縮機更新	857	1,054	0	44	44	1,098	85,553
令和 5	148	0	2系6池設備新設 1系3池防食工	汚泥濃縮機更新	802	950	50	117	167	1,117	86,670
令和 6	134	15			589	738	34	78	112	850	87,520
令和6年未計	46,379	238			37,631	84,248	1,851	1,421	3,272	87,520	



## (4) 令和7年度事業計画

① 交付金事業 1,178 百万円

□ 管渠 441 百万円

- ・ 流量計設置工事
- ・ 左岸幹線耐震補強工事、管渠耐震診断
- ・ 水管橋撤去工事

□ 処理場 737 百万円

- ・ 第2SP棟耐水化改修工事（建築）
- ・ No1・2 重力濃縮機機械更新工事
- ・ 1系列5・6池防食工事

② 県単独事業 144 百万円

- ・ 排水ポンプ場整備、植栽管理、除草工

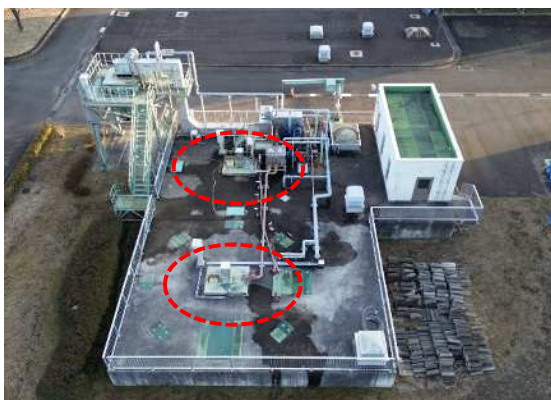
### □ 事業箇所写真



耐水化工事中（第2SP棟）



耐水化（放流ポンプ棟）



No1・2 重力濃縮機機械更新

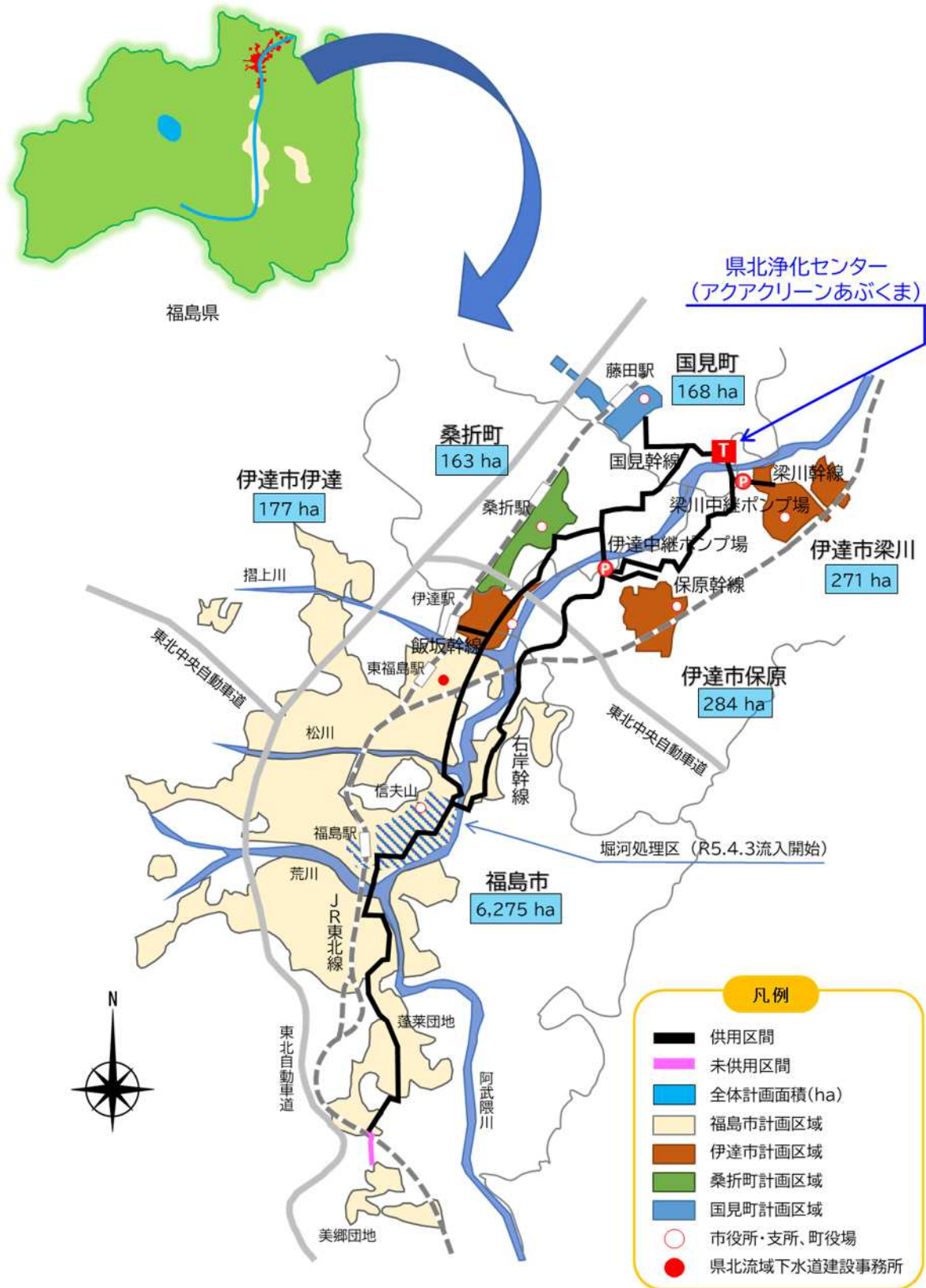


徳江水管橋撤去



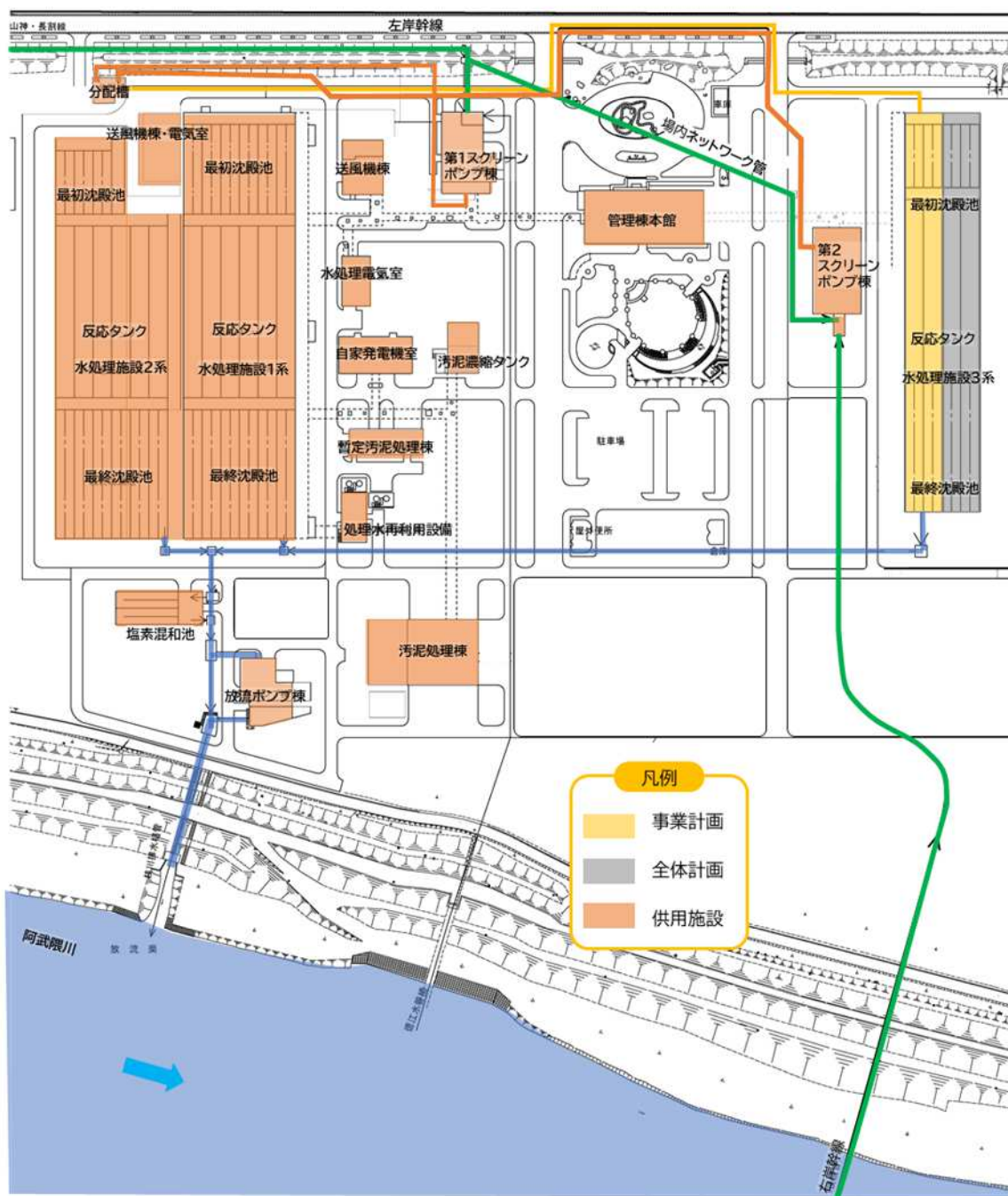
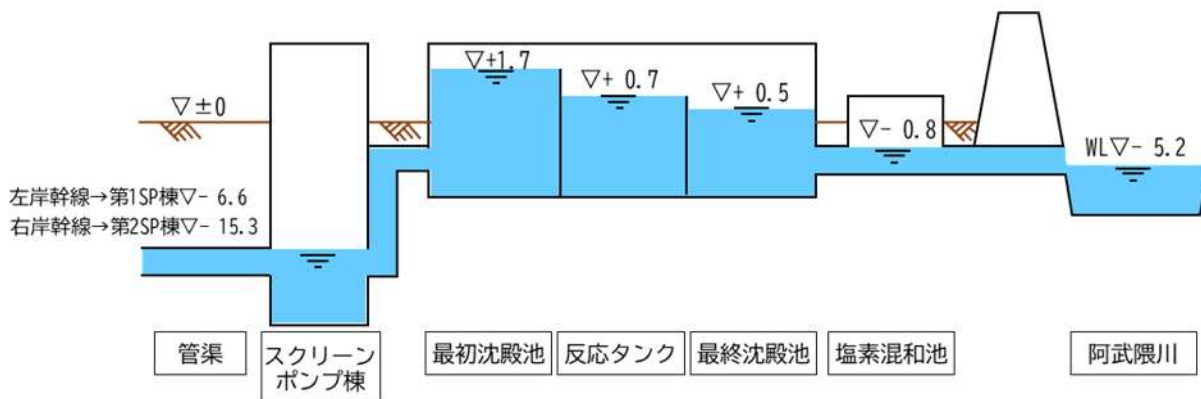


□ 県北処理区概要図





□県北浄化センター施設配置計画図 (伊達郡国見町大字徳江地内 A=42.6ha)





## 4. 災害対応体制

福島県下水道防災計画に基づき、災害の発生による下水道被災の予防及び応急復旧対策を実施することにより、住民の生命、身体及び財産を保全することを目的とし、災害対応体制を下記のとおり定める。

### 記

#### (1) 警戒配備（1号配備体制）

- ①終末処理場が所在する国見町に大雨又は洪水の気象警報が発表された場合
- ②阿武隈川（県北浄化センター放流口）の水位が41.50mを超えた場合
- ③所長が必要と認めた場合

所要の人員で被害に関する情報の収集、連絡及び応急対策を実施し、状況に応じて特別警戒配備に移行できる体制とする。

➡ 勤務時間内は建設課内で対応、勤務時間外は輪番体制（班体制）

#### (2) 特別警戒配備（2号配備体制）

- ①大雨、洪水の気象警報が発表され下水道被害が予想又は発生した場合
- ②阿武隈川の水位が42.77m（氾らん注意水位）を超えた場合
- ③県北処理区2市2町に震度5（弱）の地震が発生した場合

建設課全員で被害に関する情報の収集、連絡及び応急対策を実施し、状況に応じて特別警戒体制の設置に移行できる体制とする。

➡ 次長（業務担当）以下 建設課全員

#### (3) 特別警戒体制（3号配備体制）

- ①局地的に激甚な下水道被害が発生し拡大の恐れがある場合
  - ②阿武隈川の水位が43.77m（浄化センターの避難体制水位）を超えた場合
  - ③県北処理区2市2町に震度5（強）の地震が発生した場合
- 全職員で被害に関する情報収集、応急対策に当たる。

➡ 所長以下 全職員

#### (4) 災害対策本部体制（3号配備体制）

- ① 県北地方各地に大規模な下水道被害が発生し広域的に応急対策が必要となる場合
- ② 県北地方において、震度6（弱）以上の地震が発生した場合

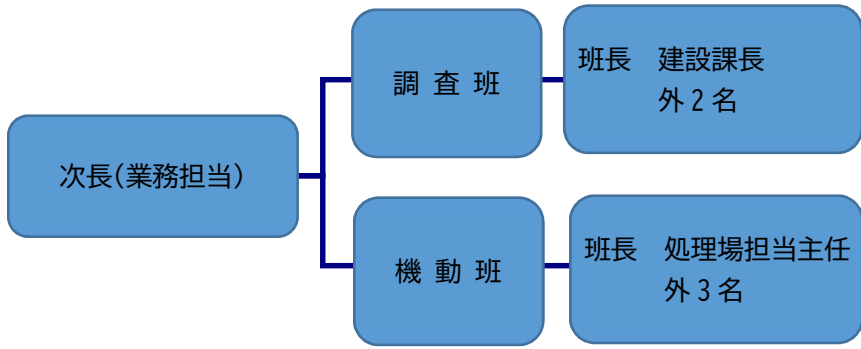
県北地方災害対策本部のもとに、組織及び機能の全てをあげて情報収集、応急対策に当たる。



警戒配備（1号配備体制）

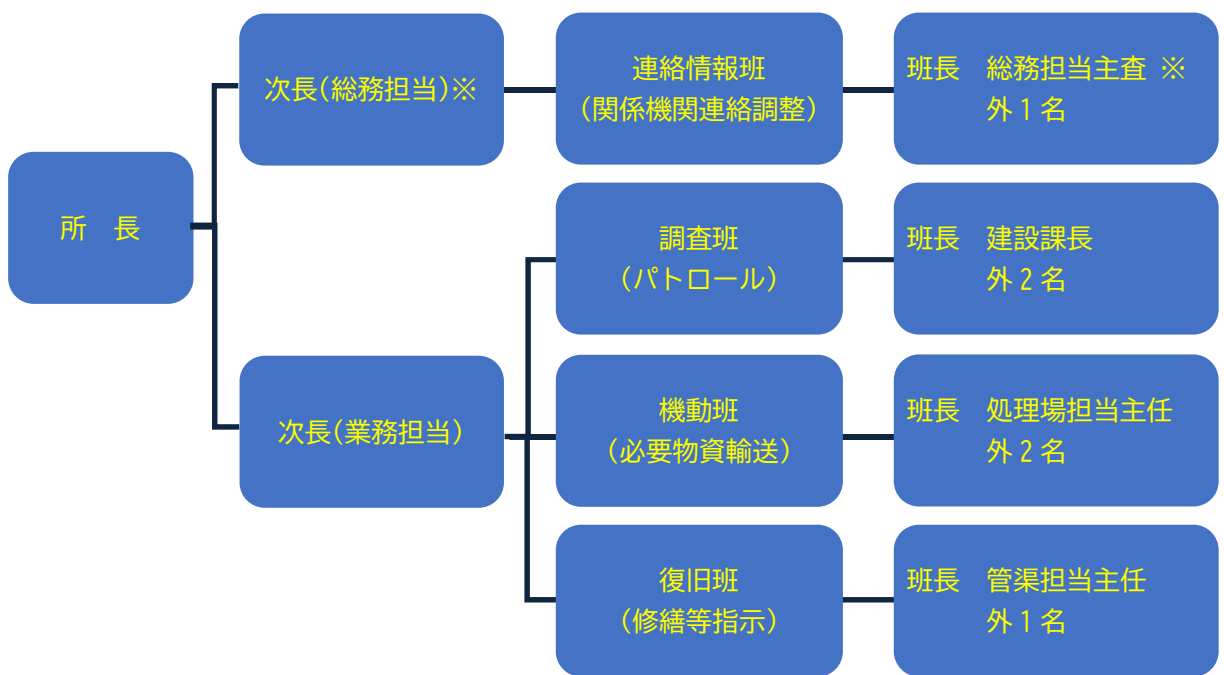


特別警戒配備（2号配備体制）



特別警戒体制（3号配備体制）

災害対策本部体制（3号配備体制）



※担当者は「県北地方災害対策事務局員」を優先する。





## 5. 施設など



県北浄化センター全景



県北浄化センター管理棟

### マスコットキャラクター「カーボー」



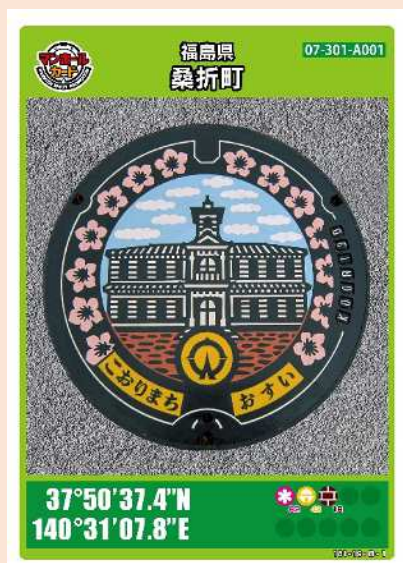
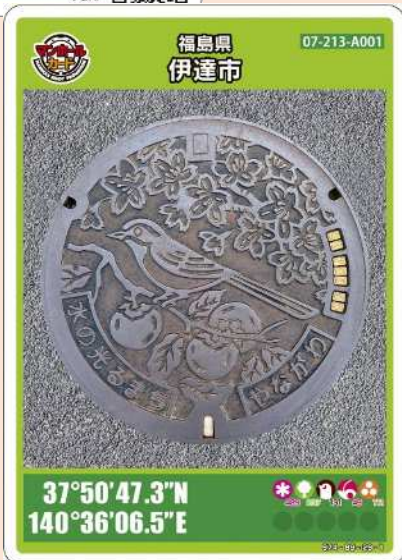
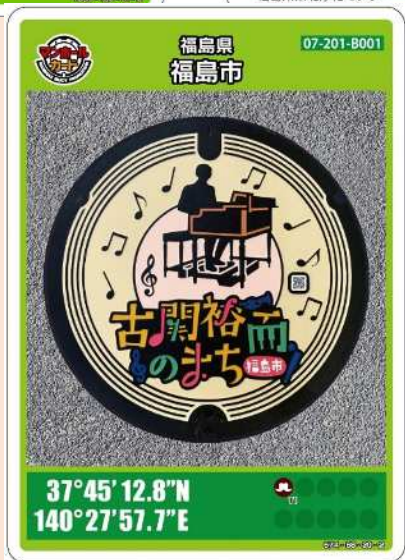
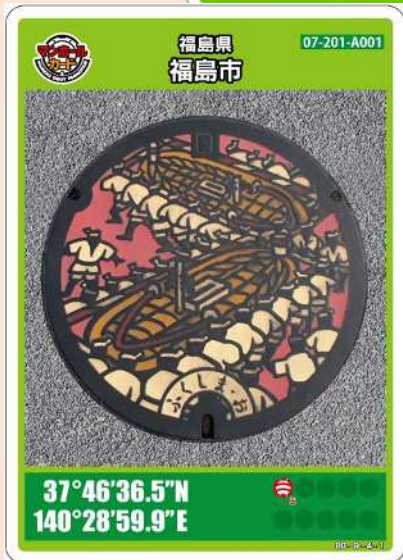
阿武隈川上流流域下水道県北処理区のマスコットキャラクターとして、平成7年度に公募により誕生しました。モチーフは清流に棲む「かわせみ」。愛称は「カーボー」と名付けられました。

ぼく、かわせみのカーボー  
よろしくね！





流域下水道・流域関連公共下水道 マンホールカード ©GKP



## 土木部スタンダード（行動規準）

- 私たちは、現場主義を徹底し、県民の視点に立ち、課題解決にしっかりと取り組みます。
- 私たちは、笑顔でさわやかな対応をこころがけるとともに、丁寧で分かりやすい説明と効果的な広報に努めます。
- 私たちは、原理・原則を守り、日々の研鑽に努め、適正に事務を執行します。
- 私たちは、社会の変化を的確に捉え、柔軟な発想を持ち、業務改善に継続して取り組みます。
- 私たちは、互いに信頼し、報告・連絡・相談しやすい風通しのよい職場づくりに努めます。
- 私たちは、きれいな水環境を保全し快適な生活環境を守るため、下水道の健全な管理・運営に努めます。
- 私たちは、災害に強い下水道を目指すため、施設の耐震化や耐水化に取り組みます。

福島県県北流域下水道建設事務所

〒960-0102 福島県福島市鎌田字一本松 43 番地

TEL024-554-2011（代） FAX024-554-2932

URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41510a/>

E-mail : [kenpoku.ryuiki@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kenpoku.ryuiki@pref.fukushima.lg.jp)